（５）すいか

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	ｼｸﾞﾅﾑWDG	ﾋﾟﾗｸﾛｽﾄﾛﾋﾞﾝ・ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ﾃｰｸ水和剤	ｼﾒｺﾅｿﾞｰﾙ・ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*),3		600～800倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか
	ﾄﾘﾌﾐﾝ水和剤	ﾄﾘﾌﾙﾐｿﾞｰﾙ水和剤	3		3000～5000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか
	ﾊﾟﾚｰﾄﾞ20ﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ水和剤	7		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
	ﾊﾟﾝﾁｮTF顆粒水和剤	ｼﾌﾙﾌｪﾅﾐﾄﾞ・ﾄﾘﾌﾙﾐｿﾞｰﾙ水和剤	3,U6		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	ﾓﾚｽﾀﾝ水和剤	ｷﾉｷｻﾘﾝ系水和剤	"UN(I*)		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか
疫病	Zﾎﾞﾙﾄﾞｰ	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	-	散布	-	すいか
褐色腐敗病	ﾌｫﾘｵｺﾞｰﾙﾄﾞ	ﾒﾀﾗｷｼﾙM・TPN水和剤	4,M5		800～1000倍	100～400ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	すいか
	ﾎﾗｲｽﾞﾝﾄﾞﾗｲﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｼﾓｷｻﾆﾙ・ﾌｧﾓｷｻﾄﾞﾝ水和剤	11,27		2500倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
菌核病	ﾊﾟﾚｰﾄﾞ20ﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ水和剤	7		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
炭疽病	ｱﾝﾄﾗｺｰﾙ顆粒水和剤	ﾌﾟﾛﾋﾟﾈﾌﾞ水和剤	M3		400～600倍	150～200ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
	ｵｷｼﾗﾝ水和剤	ｷｬﾌﾟﾀﾝ・有機銅水和剤	M1,M4		500～600倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	すいか
	ｼｸﾞﾅﾑWDG	ﾋﾟﾗｸﾛｽﾄﾛﾋﾞﾝ・ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ｼﾞﾏﾝﾀﾞｲｾﾝ水和剤	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか
	ｽﾄﾛﾋﾞｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｸﾚｿｷｼﾑﾒﾁﾙ水和剤	11		2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	TPN水和剤	M5		700倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか
	ﾃｰｸ水和剤	ｼﾒｺﾅｿﾞｰﾙ・ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*),3		600～800倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか
	ﾆﾏｲﾊﾞｰ水和剤	ｼﾞｴﾄﾌｪﾝｶﾙﾌﾞ・ﾍﾞﾉﾐﾙ水和剤	1,10		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか
	ﾍﾞﾙｸｰﾄ水和剤	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝｱﾙﾍﾞｼﾙ酸塩水和剤	M7		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
つる枯病	ｱﾌｪｯﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ水和剤	7		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ｱﾝﾄﾗｺｰﾙ顆粒水和剤	ﾌﾟﾛﾋﾟﾈﾌﾞ水和剤	M3		400～600倍	150～200ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
	ｼｸﾞﾅﾑWDG	ﾋﾟﾗｸﾛｽﾄﾛﾋﾞﾝ・ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ｼﾞﾏﾝﾀﾞｲｾﾝ水和剤	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか
	ｽﾄﾛﾋﾞｰﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｸﾚｿｷｼﾑﾒﾁﾙ水和剤	11		2000～3000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ﾀﾞｺﾆｰﾙ1000	TPN水和剤	M5		700～1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか
	ﾊﾟﾚｰﾄﾞ20ﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ水和剤	7		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
	ﾍﾞﾙｸｰﾄ水和剤	ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝｱﾙﾍﾞｼﾙ酸塩水和剤	M7		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
	ﾛﾌﾞﾗｰﾙ水和剤	ｲﾌﾟﾛｼﾞｵﾝ水和剤	2		1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
苗立枯病(ﾘｿﾞｸﾄﾆｱ菌)	ﾊﾞｼﾀｯｸ水和剤75	ﾒﾌﾟﾛﾆﾙ水和剤	7		750～1500倍	3ﾘｯﾄﾙ/㎡	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	すいか
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	すいか
べと病	ｼﾞﾏﾝﾀﾞｲｾﾝ水和剤	ﾏﾝｾﾞﾌﾞ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか
ｱｻﾞﾐｳﾏ類	ｱｸﾞﾘﾒｯｸ	ｱﾊﾞﾒｸﾁﾝ乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
ｱﾌﾞﾗﾑｼ類	ｱｸﾞﾛｽﾘﾝ乳剤	ｼﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝ乳剤	3A	劇	1000～2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか
	ｱﾄﾞﾏｲﾔｰ水和剤	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ水和剤	4A	劇	2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫3日前まで(ただし、露地栽培については着果後)	散布	3回以内	すいか
	ｳﾗﾗDF	ﾌﾛﾆｶﾐﾄﾞ水和剤	29		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ﾍﾞｽﾄｶﾞｰﾄﾞ粒剤	ﾆﾃﾝﾋﾟﾗﾑ粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	すいか
					1g/株		育苗期	株元処理	1回	すいか
	ﾏﾌﾞﾘｯｸ水和剤20	ﾌﾙﾊﾞﾘﾈｰﾄ水和剤	3A	劇	4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	すいか
	ﾓｽﾋﾟﾗﾝ粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ粒剤	4A		1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	すいか
	ﾓﾍﾞﾝﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｽﾋﾟﾛﾃﾄﾗﾏﾄ水和剤	23		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ｳﾘﾉﾒｲｶﾞ	ﾌｪﾆｯｸｽ顆粒水和剤	ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ水和剤	28		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
ｳﾘﾊﾑｼ	ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	ﾓﾍﾞﾝﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｽﾋﾟﾛﾃﾄﾗﾏﾄ水和剤	23		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
ﾀﾈﾊﾞｴ	ﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ粒剤3	ﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	すいか
ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ	ﾌｪﾆｯｸｽ顆粒水和剤	ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ水和剤	28		2000～4000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
ﾊﾀﾞﾆ類	ｱｸﾞﾘﾒｯｸ	ｱﾊﾞﾒｸﾁﾝ乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ｶﾈﾏｲﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｱｾｷﾉｼﾙ水和剤	20B		1000～1500倍	150～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	1回	すいか
	ﾊﾞﾛｯｸﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｴﾄｷｻｿﾞｰﾙ水和剤	10B		2000倍	100～350ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	ﾓﾍﾞﾝﾄﾌﾛｱﾌﾞﾙ	ｽﾋﾟﾛﾃﾄﾗﾏﾄ水和剤	23		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
ﾐﾅﾐｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	ﾀﾞﾝﾄﾂ水溶剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ水溶剤	4A		2000倍	100～300ﾘｯﾄﾙ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか

すいか炭疽病対策

1　すいか炭疽病について

すいか炭疽病は、コレトトリカムというカビの一種によって引き起こされる病気である。発病適温は 22～28℃で、湿度が高いと 24 時間以内に胞子が発芽し、48 時間以内に組織に侵入し、1週間以内に発病する。特に、降雨があると病斑状の胞子が飛散し、他の茎葉、果実に伝染し、蔓延する。露地栽培では、トンネルを除去したころから発病しはじめ、気温が低く、雨の多い年に多発する。また、窒素過多でも発生が多くなる。

2　防除対策

育苗期防除対策

・苗床やハウスでは多発することは少ない。
・苗床では高温多湿を避ける。
・苗床では発病前から予防散布を行い、健全な苗を確保する。
・発病を認めたら治療効果のある薬剤を7日おきに2～3回散布する。

圃場防除対策

・連作は避ける。排水の悪い圃場は、排水対策を実施する。
・降雨のはねかえりで感染するので、早めに敷きわらやポリマルチを行う。
・前年、炭疽病が発生した圃場は原則、作付けを避けるが、やむを得ず作付けする場合は、土壌消毒の実施や予防散布に努める。
・トンネル除去後は、感染の好適条件にもなることから、1 週間おきを目安に予防防除を行う。
・ベンゾイミダゾール系剤（トップジン、ベンレート等）は耐性菌が発生しているので使用しない。
・不要な側枝は早めに除去し、採光と通風しをよくする。摘果玉は圃場内に放置せず、圃場外に持ち出すか埋設する。
・降雨後は、薬剤散布量を十分取り、果実表面にも十分薬剤が付着するように散布する。
・炭疽病の発生を確認したら、治療効果のある薬剤を3～5日おきに少なくとも2～3回散布する。新しい病斑の形成がなくなったら、予防効果のある薬剤を7日おきに散布する。特に、果実付近の防除を徹底する。
・収穫時に降雨があった場合、果実表面が濡れたり土壌が付着したりしているものは、コンテナに積み込む前に固く絞ったタオルで十分拭き取る。
・収穫終了後、発病株の罹病部位（葉や果実）は圃場外に持ち出し、埋設する。

【参考】すいか炭疽病防除薬剤一覧

FRAC コード	農薬の名称	使用時期（収穫何日前まで）	その他の適用病害虫									効果	
			つる枯病	疫病	褐斑細菌病	べと病	菌核病	うどんこ病	褐色腐敗病	ハダニ類	果実汚斑細菌病	予防	治療
M03	アントラコール顆粒水和剤	前日まで	○									○	
	ジマンダイセン水和剤	7日前まで	○	○	○	○						○	
M01	ドキリンフロアブル	前日まで	○								○	○	
M01+M04	オキシラン水和剤	14日前まで	○									○	
M04	オーソサイド水和剤80	14日前まで	○			○						○	
M05	ダコニール1000	3日前まで	○									○	
4+M05	フォリオゴールド	7日前まで	○						○			○	○
11+M05	アミスターオプティフロアブル	3日前まで	○				○	○	○			○	○
11+7	シグナムWDG	前日まで	○				○	○	○			○	○
11	アミスター20フロアブル	前日まで	○									○	○
	ストロビーフロアブル	前日まで	○					○				○	○
2+M01	スクレタン水和剤	7日前まで	○		○		○					○	○
21+M05	ドーシャスフロアブル	3日前まで	○						○			○	○
M07	ベルクート水和剤	前日まで	○				○	○				○	
10+1	ゲッター水和剤	前日まで										○	○
3+M03	テーク水和剤	7日前まで	○					○				○	○
3	スコア顆粒水和剤	前日まで	○					○				○	○
10+1	ニマイバー水和剤	前日まで	○				○	○				○	○
11+M07	ファンベル顆粒水和剤	前日まで	○				○	○				○	○
40+M05	プロポーズ顆粒水和剤	3日前まで							○			○	○

＊使用濃度、使用量、使用回数等は確認すること。